


2012年3月期決算説明会資料

～事業構造改革とグローバル事業の拡大により2013年3月期増収増益をめざす～

2012/04/24

 株式会社日立ハイテクノロジーズ

執行役社長 久田 眞佐男

執行役常務 西田 守宏

2012年3月期決算説明会資料

I 2012年3月期 決算概要

II 2013年3月期 経営方針

III 2013年3月期 業績予想

IV 参考:データ集

I 2012年3月期 決算概要

(注)YY/MはYY年M月期を表しています。
(e)は、前回予想(2012年1月公表値)

2012年3月期決算(ハイライト)



(億円)

	当期実績	前年同期比		前回予想比	
		増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	6,459	△76	△1%	+59	+1%
営業利益	255	△24	△9%	+15	+6%
経常利益	262	△32	△11%	+22	+9%
当期利益	143	△35	△20%	+13	+10%
一株利益	103円71銭	△25円36銭		+9円19銭	
一株配当	30円00銭	+10円00銭		±00円00銭	
ROE	5.8%	△1.7%		—	
FIV	+33	△26		—	
FCF	+183	△39		+18	

・一株配当には、日立ハイテク創立10周年記念配当金10円含む

1. 売上高・営業利益 偏差説明(2012年1月3Q決算発表時比較)

売上高 (6,400億円 → 6,459億円 +59億円)

- 電子デバイスシステム: 評価装置・実装装置の出荷遅延等により71億円減少
- 科学・医用システム: 海外市場向け医用分析装置の好調等により51億円増加
- 産業・ITシステム: 米国向け携帯電話の売上増等により67億円増加
- 先端産業部材: 自動車部品の需要増等により12億円増加

営業利益 (240億円 → 255億円 +15億円)

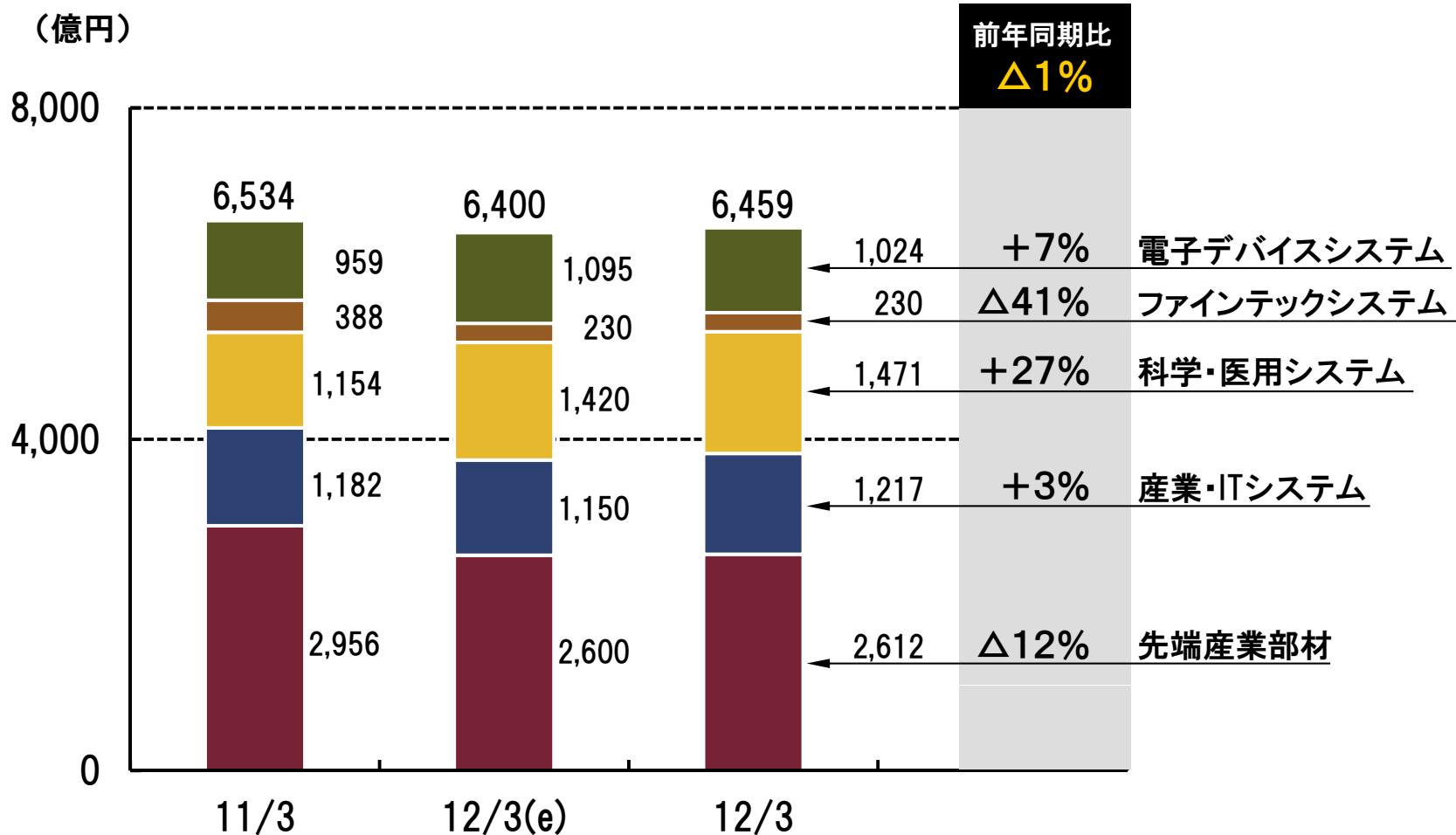
- 電子デバイスシステム: 上記と概ね同様の理由により9億円減少
- 科学・医用システム: 上記と概ね同様の理由により24億円増加

2. 特別利益・特別損失

	当期実績	主な内容
特別利益	62億円	震災関連保険差益および保険金61億円他
特別損失	41億円	事業構造改善費用21億円、減損損失12億円他

2012年3月期決算(売上高)

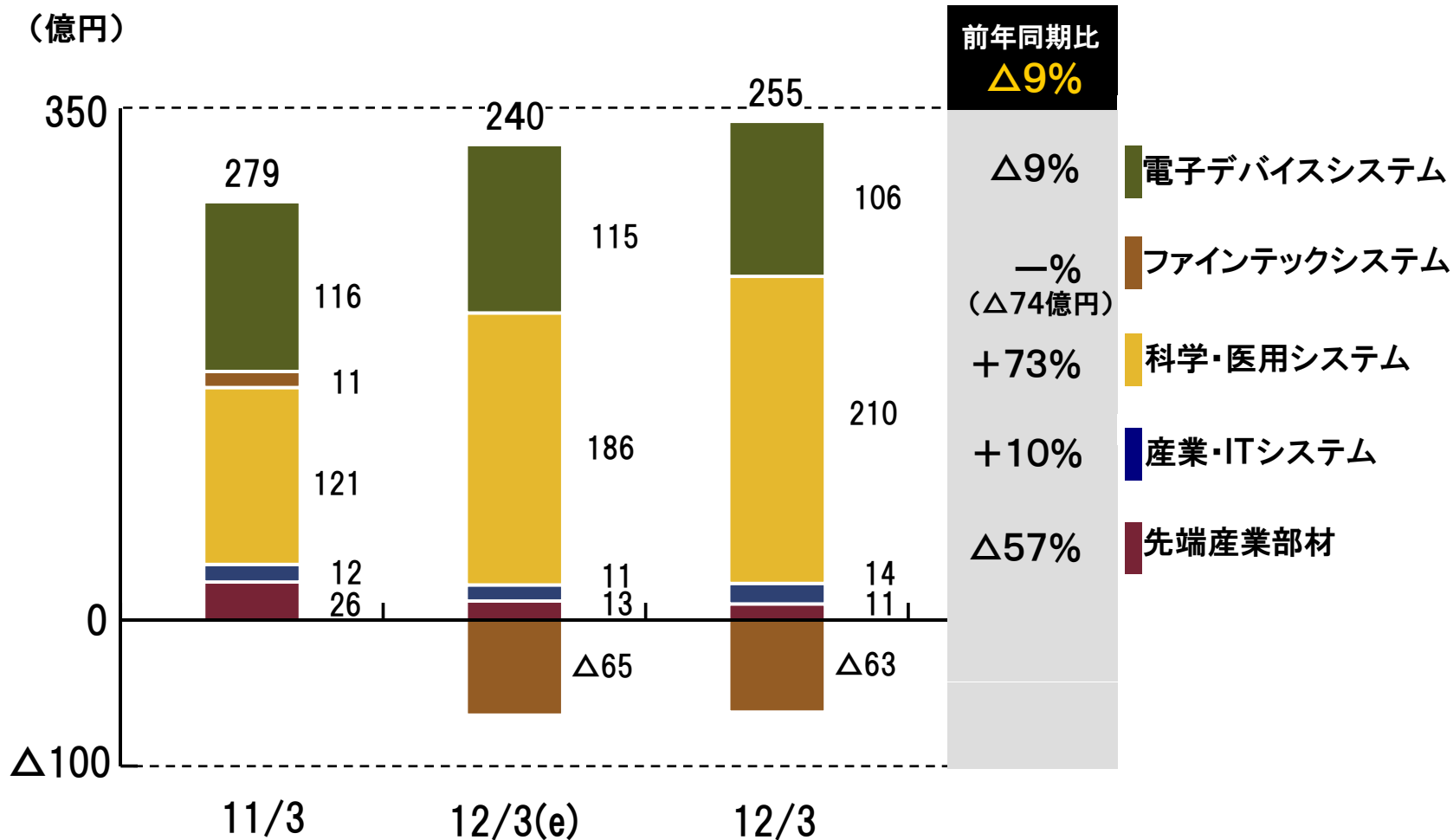
売上高



(注)合計にはセグメント間の内部取引の消去等が含まれております。

2012年3月期決算(営業利益)

営業利益



(注)合計にはセグメント間の内部取引の消去等が含まれております。

2012年3月期決算(貸借対照表〔要約〕)

2012年3月末 (億円)

			11/3末比				11/3末比
流動資産		3,538	+233	流動負債		1,615	+187
現預金、関係会社預け金	1,221	+165		支払手形および買掛金	1,055	+106	
受取手形および売掛金	1,300	△1		その他	561	+81	
たな卸資産	686	△3		固定負債		276	+1
その他	330	+71		退職給付引当金	266	+3	
固定資産		884	+56	その他	10	△2	
有形固定資産	597	+58		純資産		2,530	+102
無形固定資産	63	+0		株主資本	2,544	+101	
投資その他の資産	224	△3		その他の包括利益 累計額合計	△16	△1	
				少数株主持分	2	+1	
資産合計		4,422	+289	負債および純資産合計		4,422	+289

・ 1株当たり純資産:1,837円84銭(前年同期比 +73円18銭)

2012年3月期決算(キャッシュ・フロー計算書〔要約〕)

(億円)	12/3		12/3
営業活動による キャッシュ・フロー	+435	財務活動による キャッシュ・フロー	△41
税引前利益	+283	配当金の支払	△41
減価償却費	+91	その他	△0
運転資金	+71	換算差額	△2
法人税等支払・還付額	△64		
その他	+54		
投資活動による キャッシュ・フロー	△252		
有価証券の取得・売却	△31		
固定資産取得・売却	△107		
その他	△114		
フリー・キャッシュ・フロー	+183		
			12/3
		現金および現金同等物	
		期首残高	1,077
		増減額	+139
		期末残高	1,216

Ⅱ

2013年3月期 経営方針

2013年3月期 経営方針

1. 成長分野へのリソースシフトによる事業ポートフォリオの強化
2. グローバル事業の拡大
3. 開発のスピードアップによる事業創造の推進

Creative Minds. Innovative Solutions.

1. 成長分野へのリソースシフトによる事業ポートフォリオの強化

事業上の課題

- 電子デバイスシステム： プロセス製造装置事業は立ち上がるも、実装装置事業のシェア向上遅れ
- ファインテックシステム： HD製造装置市場は回復なるも、液晶関連装置市場の低迷
- 商 事 部 門 ： 国内民生系電子部品事業の落ち込み

今後の取り組み

電子デバイスシステム

- 課題事業のコスト削減
- 販売・開発・製造の一体化による筋肉質体制の構築
- 重点・伸張顧客の実績化およびN倍化



ファインテックシステム

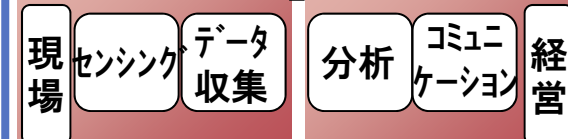
- 事業構造改革によるコスト削減
- 新事業開発へのリソースシフト

・有機EL関連装置事業
・プリンタブルエレクトロニクス

商事部門

- 計装・ITグループ会社統合による産業ソリューション創造

ハード(HTR)* + ソフト(HSL)*



現場から経営までを一貫して支援

- 環境・エネルギー関連事業早期立ち上げ(プロジェクト体制構築)

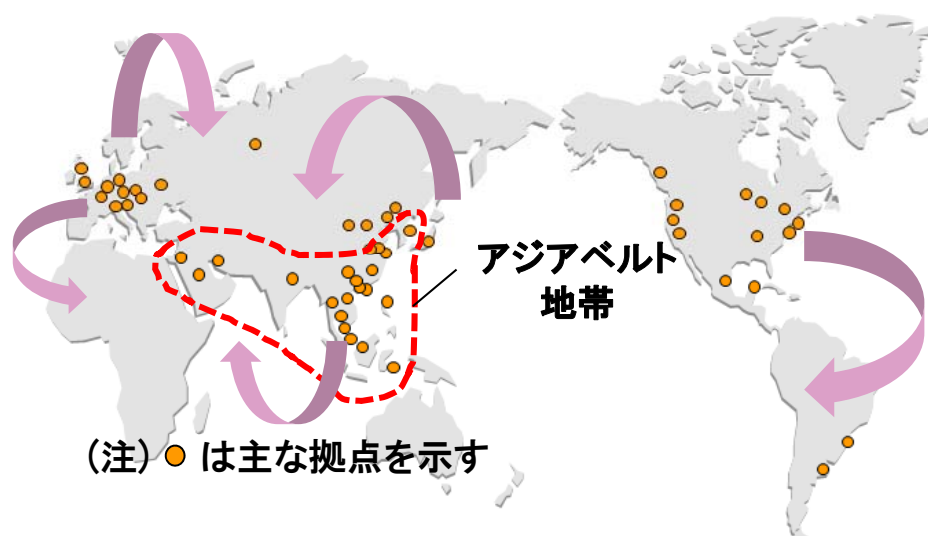
2. グローバル事業の拡大

グローバル化総合施策の推進

グローバルランドデザインのアクション
プラン実行とPDCA管理継続

海外展開のさらなる加速

- ・アジアベルト、ブラジル、ロシア、
サウジアラビア深耕
- ・トルコ・アンデス他次期開発着手
- ・現地発新事業創生制度の確立



日立グループのグローバル調達活動

グローバル調達急拡大に向けて
日立グループ商社としての活動推進

- 日立営業本部新設(12/4月)による 連携強化

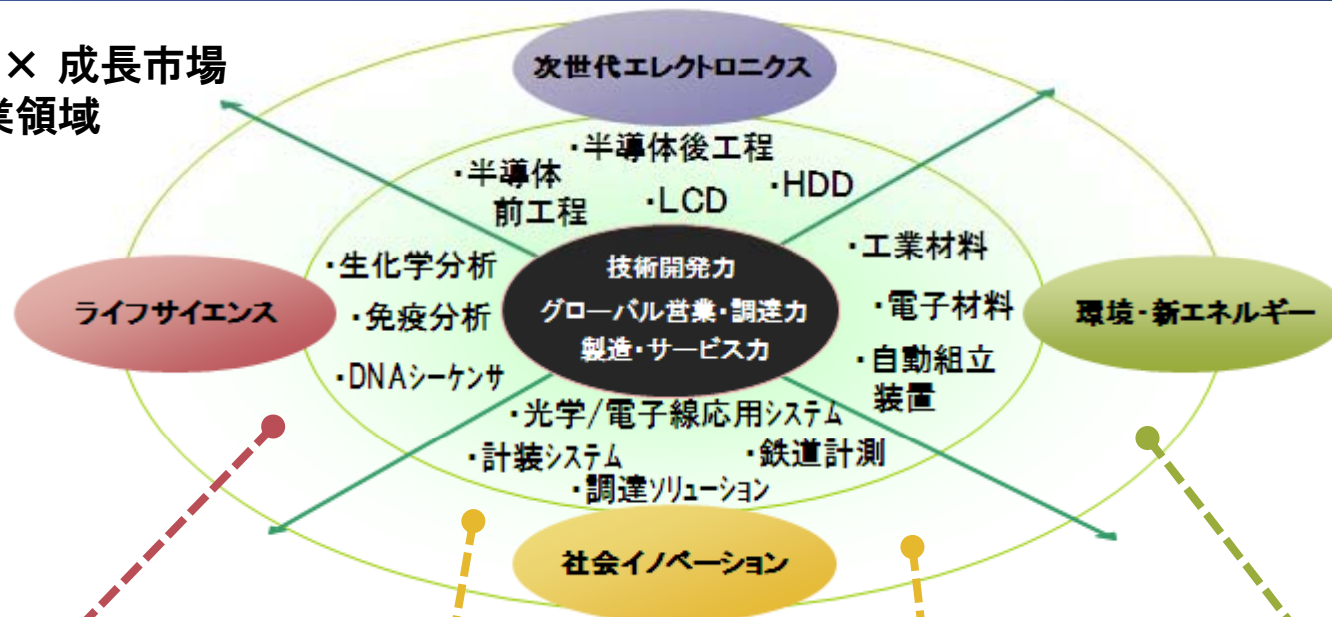
成長戦略と施策

- 活動領域の拡大
 - ・エマージングゾーンへの調達人財派遣
 - ・対象事業所、エリアの拡大
- 加工メーカー、流通機能への積極投資
実装基板、金型、鋳物部品生産能力の
統合再編等
- ローコストオペレーションの確立
 - ・当社グループ購買力の強化
 - ＞ 集中・集約購買比率向上
 - ＞ グローバル調達拡大
 - ・W/W生産力強化
 - ＞ 中国製造グループ会社の増強・活用

3. 開発のスピードアップによる事業創造の推進

新事業創生活動の加速

自社の強み × 成長市場
⇒ 有望事業領域



Cプロ*テーマと内容

製薬研究支援	社会インフラ分析ソリューション	ストリーミングプラットフォーム NEW	塗布成膜ソリューション
新薬製造プロセスへのソリューション提供事業	分析技術を活用した安全・安心な社会のためのソリューション提供事業	ビックデータ分析により顧客の課題解決を実現するシステムおよび分析支援サービス	新技術活用による装置・材料・製造プロセスのトータルソリューション事業

*Corporate(全社)・Challenge(挑戦)プロジェクト

Ⅲ 2013年3月期 業績予想

(注)YY/MはYY年M月期を表しています。

2013年3月期 業績予想(ハイライト)



(億円)

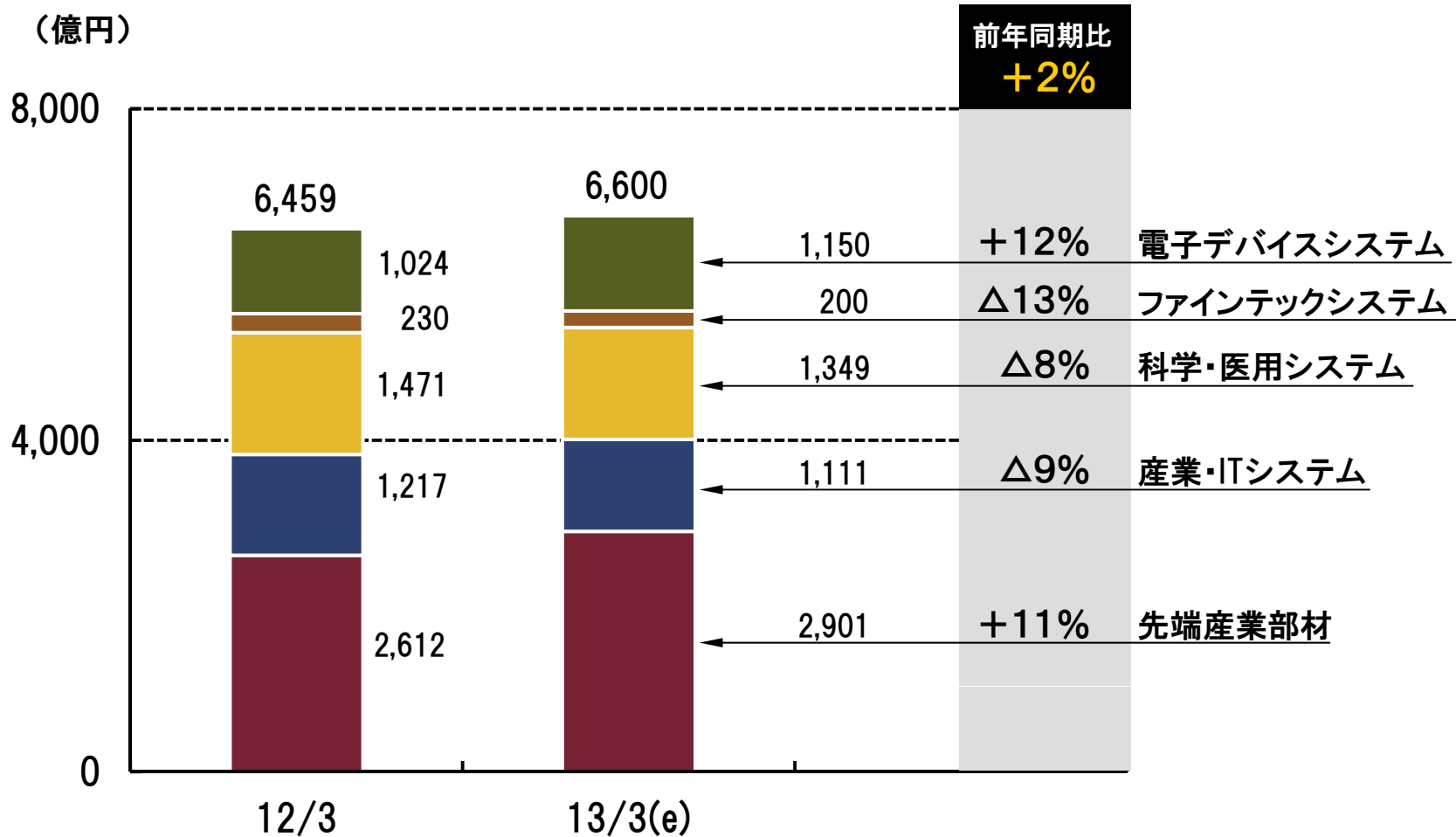
	当年度予想	前年度実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	6,600	6,459	+141	+2%
営業利益	300	255	+45	+18%
経常利益	294	262	+32	+12%
当期利益	188	143	+45	+32%
一株利益	136円69銭	103円71銭	+32円98銭	
一株配当	20円00銭	30円00銭	△10円00銭	
ROE	7.2%	5.8%	+1.4%	
FIV	+58	+33	+25	
FCF	+100	+183	△83	

・前年度の一株配当には、日立ハイテク創立10周年記念配当金10円含む

・想定レート: 1USD=80円、1EUR=105円

2013年3月期業績予想(売上高)

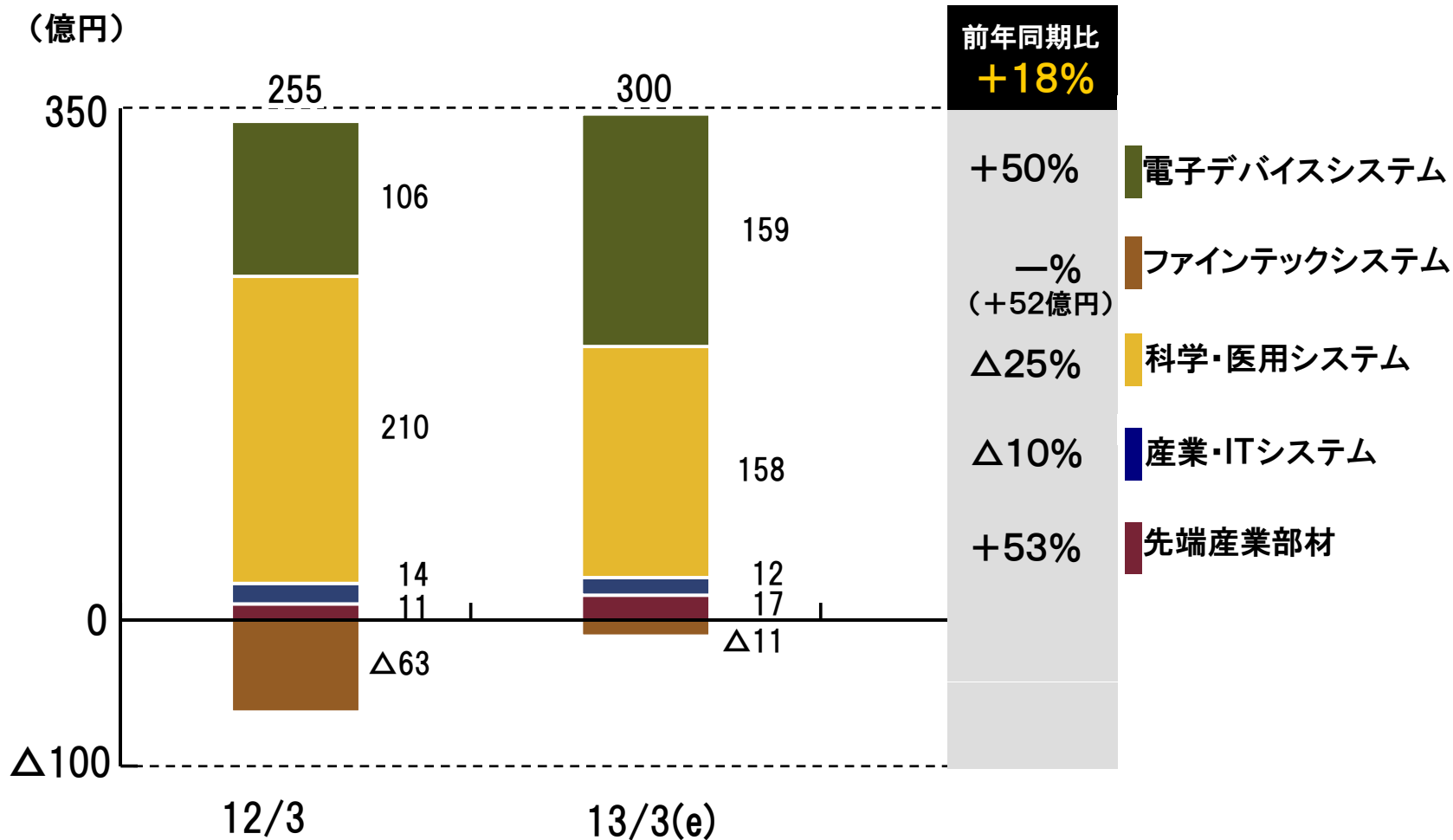
売上高



(注)合計にはセグメント間の内部取引の消去等が含まれております。

2013年3月期業績予想(営業利益)

営業利益



(注)合計にはセグメント間の内部取引の消去等が含まれております。

12年度事業環境

半導体デバイス市場

- スマートフォンやタブレット端末などのモバイル関連機器の好調により、12年度の半導体デバイス市場は+4%前後の成長を見込む
- 12年度もモバイル機器に使用されるASSP、NANDが市場を牽引、MPUもサーバー関連中心に伸長を見込む

半導体製造装置市場

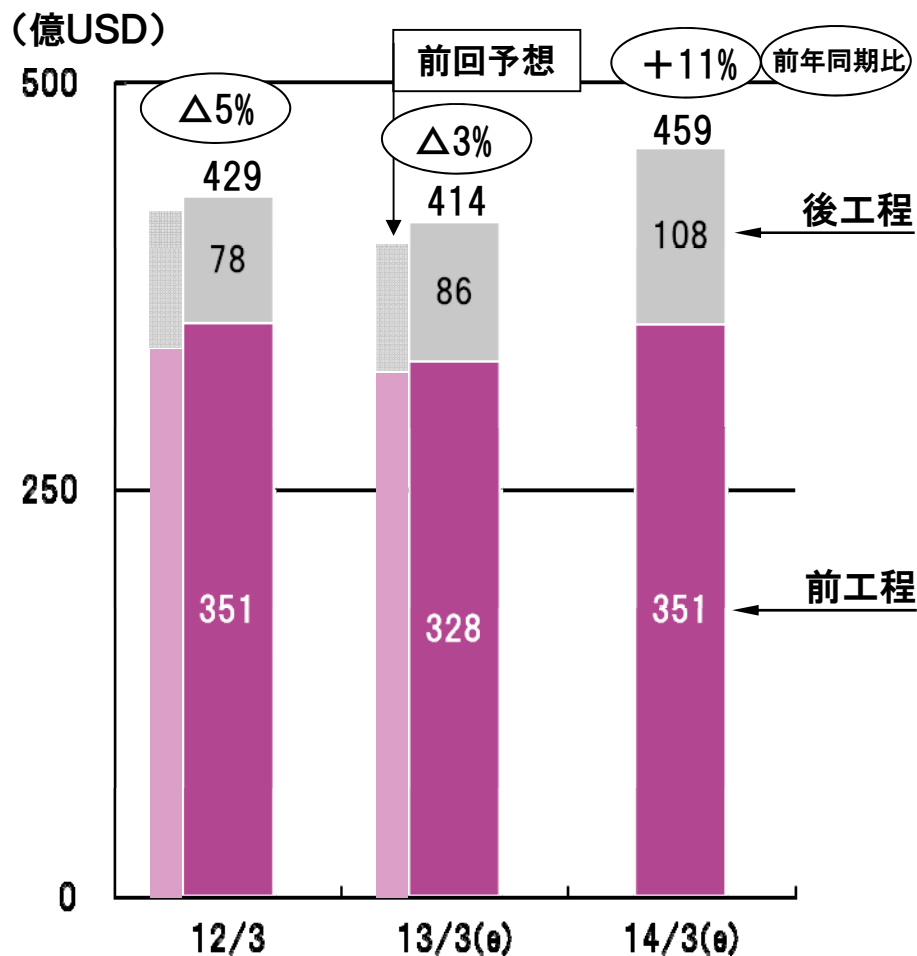
- 12年度装置市場は前年度比△3%と若干減少の見通し
- デバイスメーカーの寡占化が進み、ファウンドリ・MPU・NAND大手3社で全投資の約50%を占有する。大手デバイスメーカー3社は12年度も積極的な設備投資を行い、前年度比+6%の見通し
- MPU大手は22nm製品、ファウンドリ大手は28nm製品の本格量産を開始。先端微細プロセスに向けた大型投資を予定

実装装置市場

- 12年度はモバイル関連機器が伸長し、高速マウンタ市場は+3%。マウンタ全体では+1%の見込み

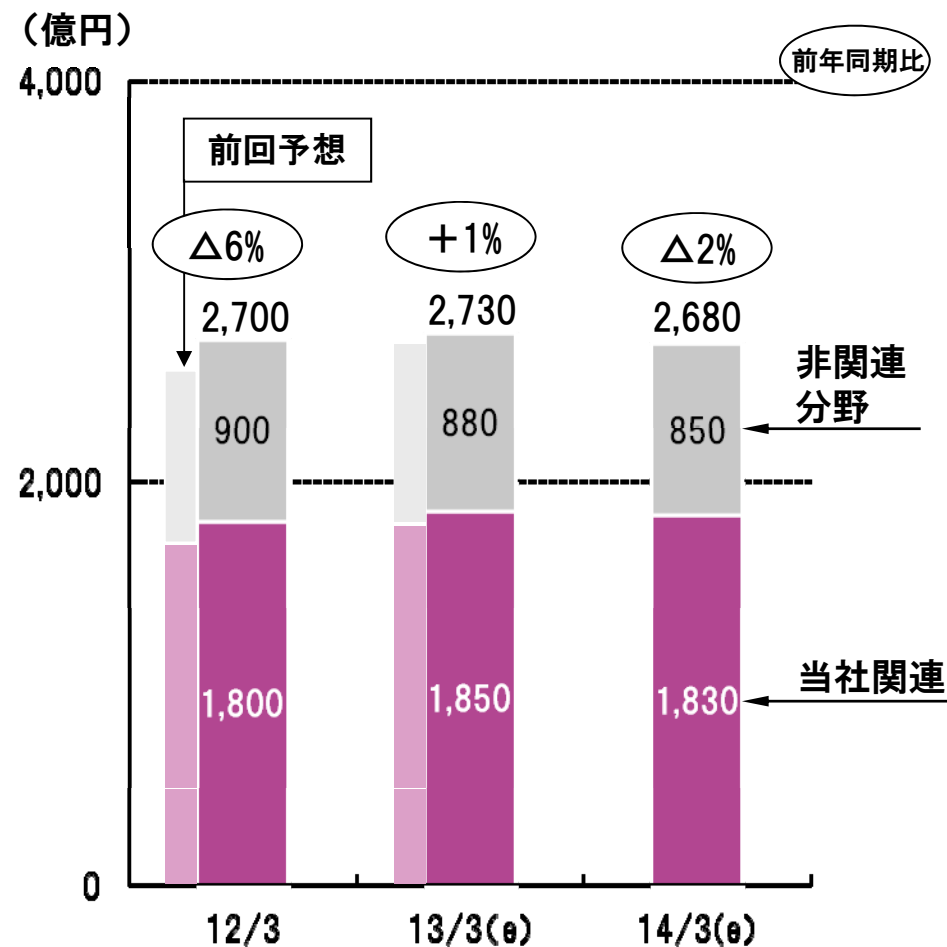
2013年3月期業績予想(電子デバイスシステム)②

半導体製造装置市場



(出所)Gartner(12年3月)に基づき当社作成
 前回予想は11年10月の12年3月期2Q決算発表時の見通し

実装装置市場



(出所)日本ロボット工業会資料(12年1月)調査機関資料に基づき当社作成
 前回予想は11年10月の12年3月期2Q決算発表時の見通し

半導体デバイスの微細化動向と当社の対応

半導体デバイス・プロセス技術の動向

- ・MPU :22nm FinFET とASSP :28nm HK/MG*の本格量産に伴うダブルパターンニング適用工程数の増加

*HK/MG:High-k Metal Gate

当社の対応

- ・微細化・工程増に対応する新製品の積極投入と新分野開拓
- ・顧客との連携を強化するための海外拠点の充実
- ・徹底したモノづくり改革によるコスト競争力の強化

微細化性能
向上

2X、1Xnm世代対応

3D構造・高精度加工・計測

生産性の
向上

スループット向上

自動化

混載化への
対応

新型メモリー対応

小ダイ・小型部品混載実装対応



新型エッチング装置
9000シリーズ



新型CD-SEM
CG5000



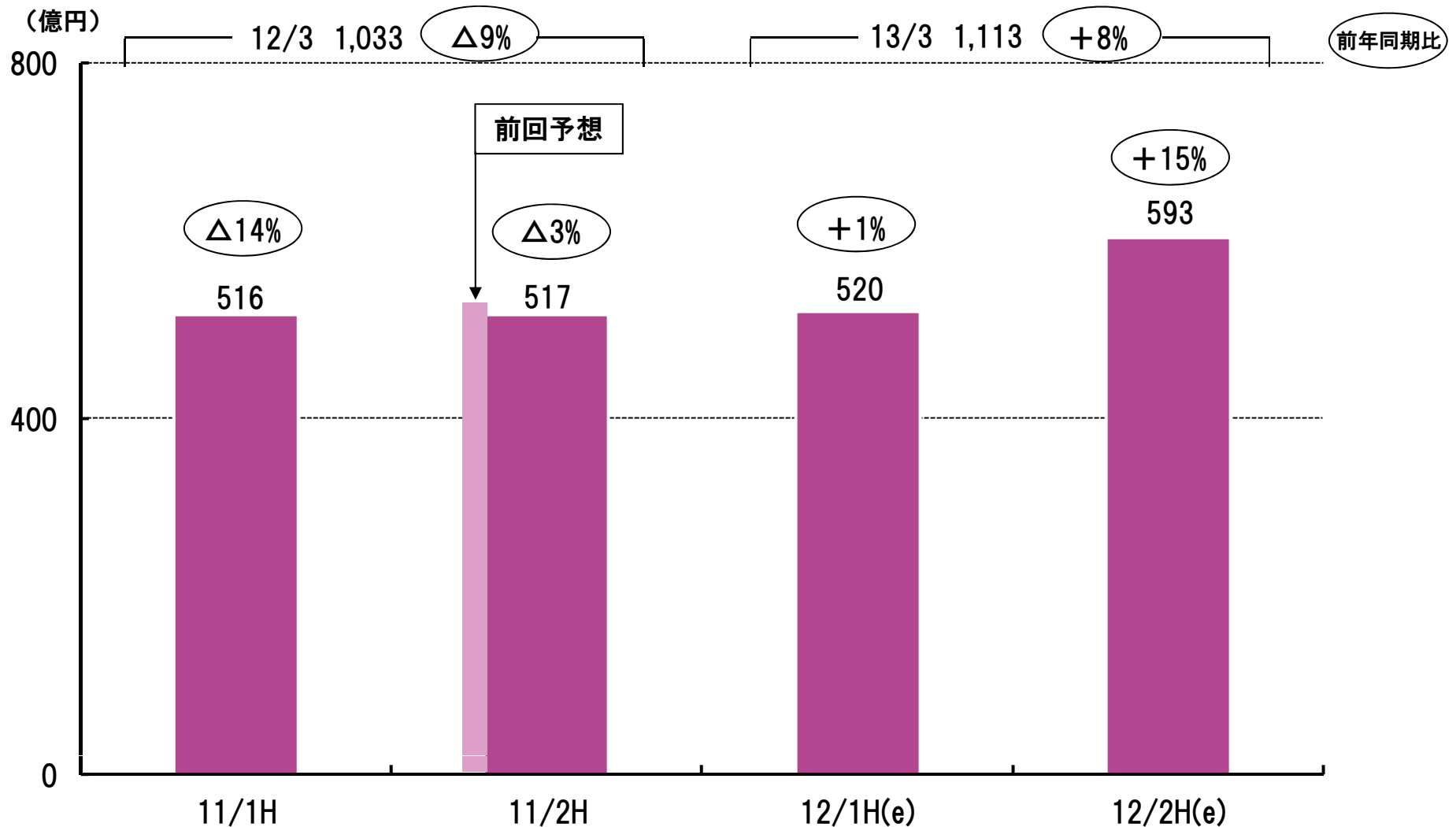
設計データ応用
計測システム
DesignGauge®



新型フレキシブル
ダイボンダDB900

2013年3月期業績予想(電子デバイスシステム)④

受注高の推移



2013年3月期業績予想(電子デバイスシステム)⑤

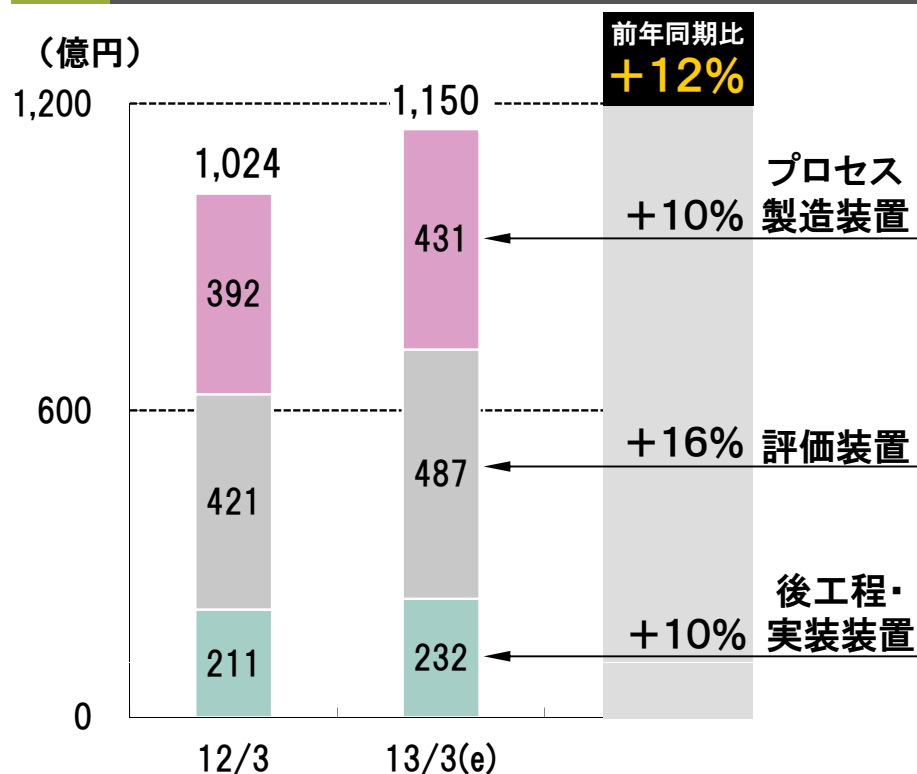
12年度 基本戦略

1. 成長分野*、技術変化**に対応したソリューション提案による顧客価値の実現

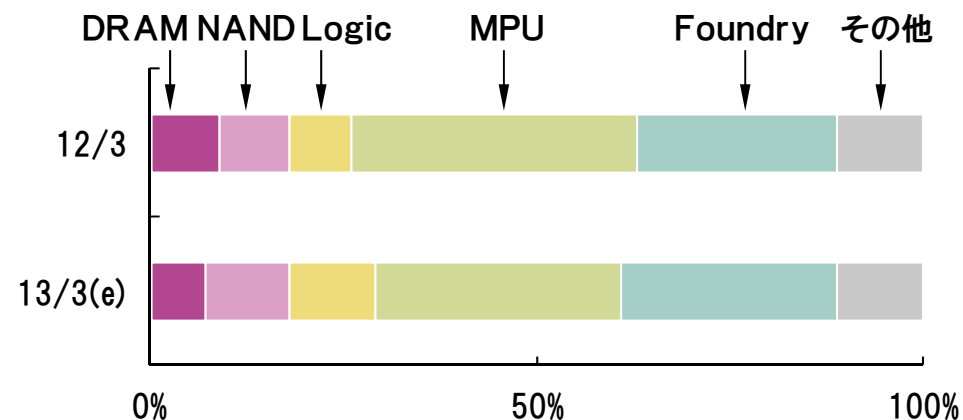
*成長分野: モバイル機器・通信 **技術変化: 新材料・新構造・微細化加速

2. 主力製品の売上拡大と新製品の市場投入による顧客数拡大

主要製品群別 売上高の推移



前工程装置 分野別売上高比率



11年度: MPUは積極的投資により堅調に推移。
DRAM関連は、投資抑制

12年度: ファウンドリの大型投資が継続。
Logic関連の投資が増加

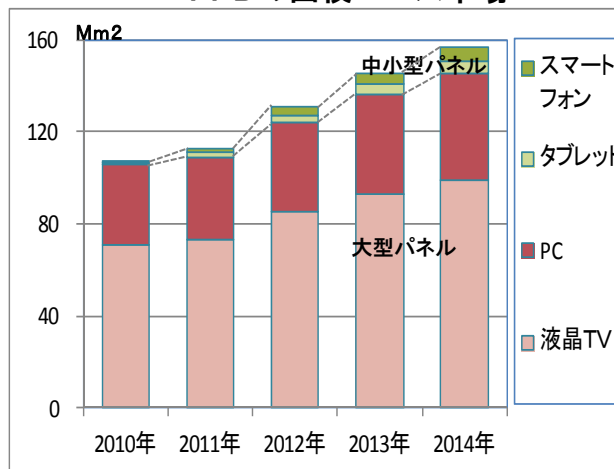
2013年3月期業績予想(ファインテックシステム)①

12年度事業環境

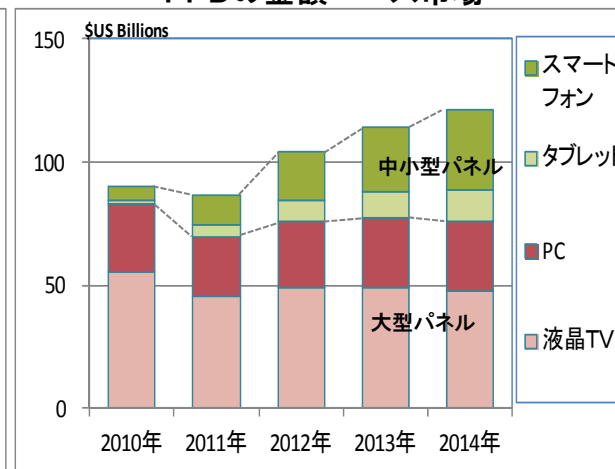
FPD業界動向

- ・面積市場は大型パネルが今後も市場を牽引
- ・金額市場は大型パネルは成熟期に移行
中小型関連が今後の成長をリードして行く

FPDの面積ベース市場



FPDの金額ベース市場



出所: DisplaySearch

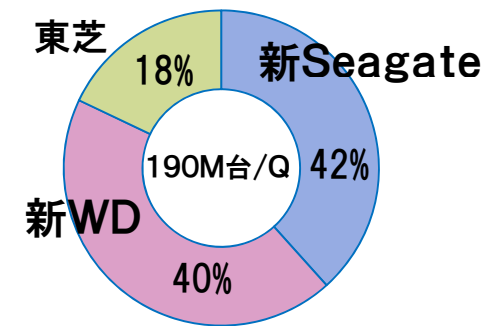
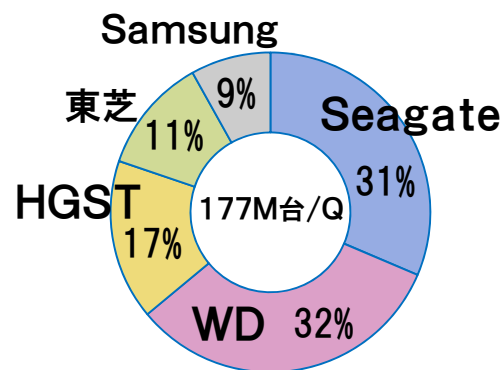
HD業界動向

- ・業界再編により市場環境が変化
- ・SeagateによるSamsung HD事業買収(2011年12月)
- ・WDによるHGST買収(2012年3月)
- ・WDの3.5インチHDD事業の一部が東芝へ譲渡される見込み

HDD出荷台数シェア(当社予想)

再編前(CY2011/Q3)

再編後(CY2012/Q4)



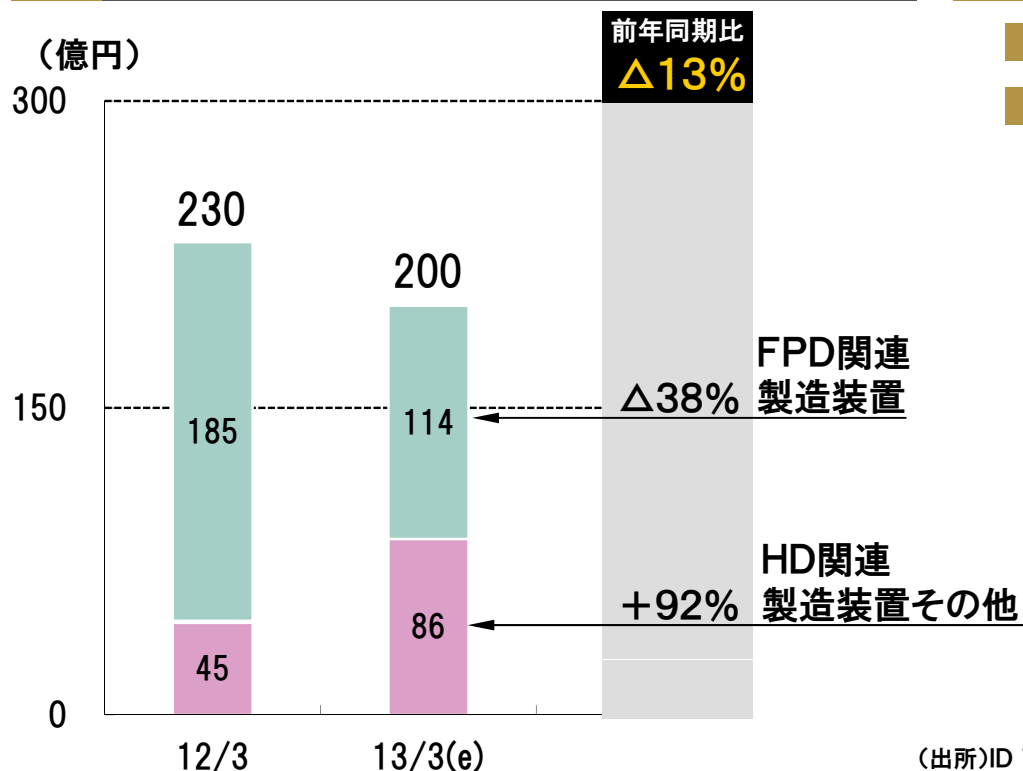
シェア変動の可能性

2013年3月期業績予想(ファインテックシステム)②

12年度基本戦略

1. 事業構造改革による事業ポートフォリオの再構築
2. 新規事業の立ち上げに向けた事業戦略の推進

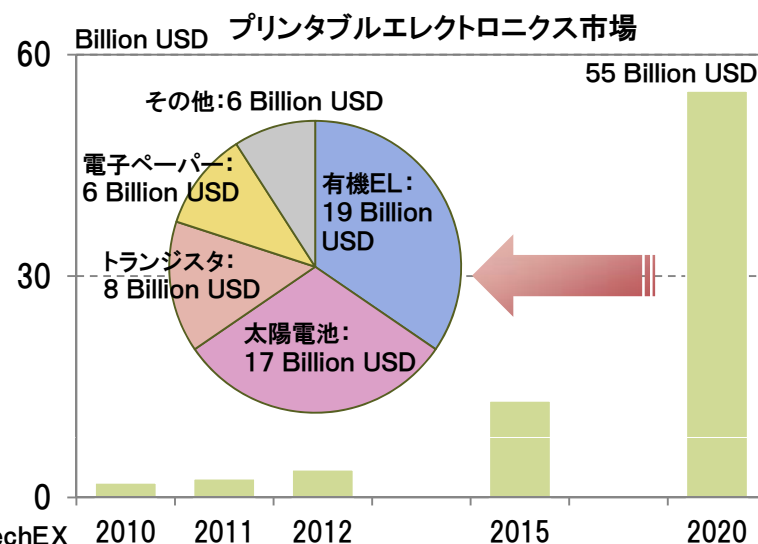
主要製品群別売上高の推移



(注)サブセグメント「FPD関連商事品」は、売上高が少額のため、「FPD関連製造装置」に統合しました。

新規事業の立ち上げ

- 有機EL装置事業
- プリントブルエレクトロニクス分野
製造・検査装置事業

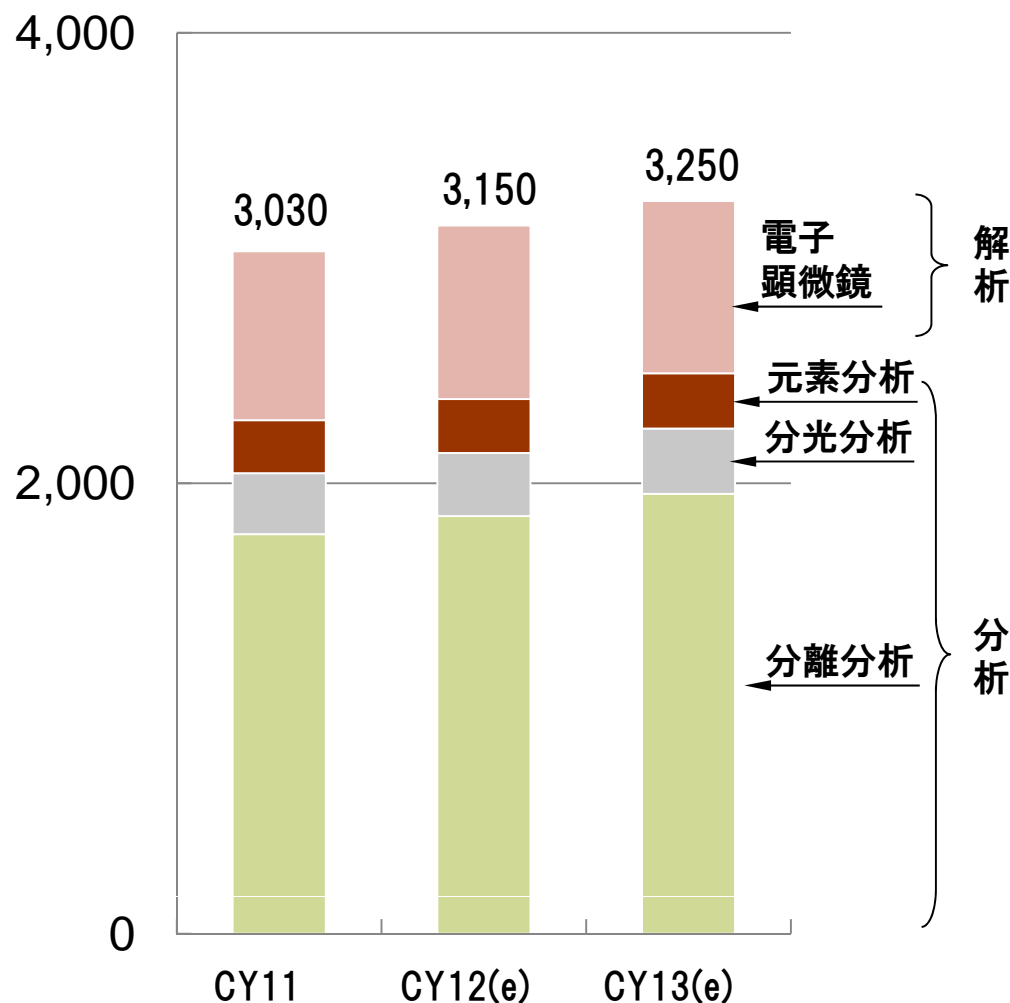


2013年3月期業績予想(科学・医用システム)①

科学関連事業

分析・解析装置市場(当社関連)

(億円)(売上ベース) CAGR 4%



(出所)当社推定

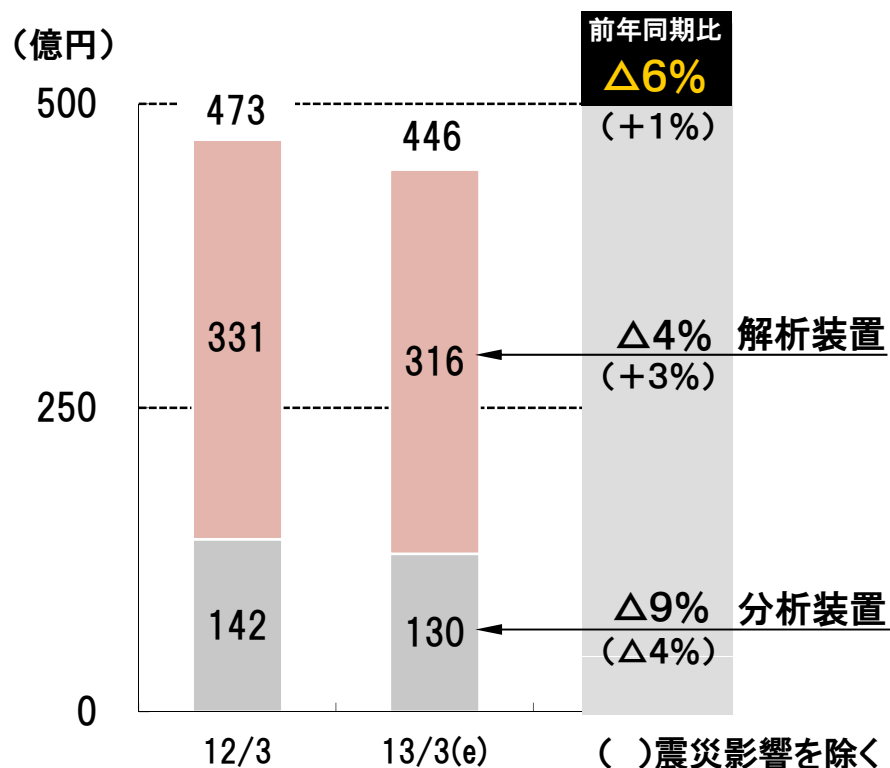
12年度事業環境

- 分析装置**
 - ・分離分析(HPLC)は年率5%の伸長を予測
 - ・市場としては、中国や新興国において、今後も堅調な成長が見込まれる
 - ・分析装置全体としては4%の成長を予測
- 解析装置**
 - ・半導体・液晶関連分野の需要が減少
 - ・次世代向け先端分野(新エネルギー・新素材)関連市場の需要は拡大傾向
 - ・解析装置全体としては微増と予測
- 共通**
 - ・円高による価格競争の激化

12年度基本戦略

1. 先端アプリケーション開発強化による販売の拡大
2. コア技術の強化による新製品の継続的投入

売上高の推移



今後の取り組み

- 顧客デモ活動(購入調査等)の充実と、最先端アプリケーションの開発強化
 - ・東京ソリューションラボの積極活用(2011年12月開設)
 - ・日立大連開発センター(日立儀器(大連) 有限公司 開発中心)の活用(2011年6月開設)

- 新興国市場向け製品の中国における開発から生産までの一貫体制の確立



東京ソリューションラボの開所式

- コア技術(光分析技術/流体制御技術/電子線応用技術)強化による解析・分析新製品の投入

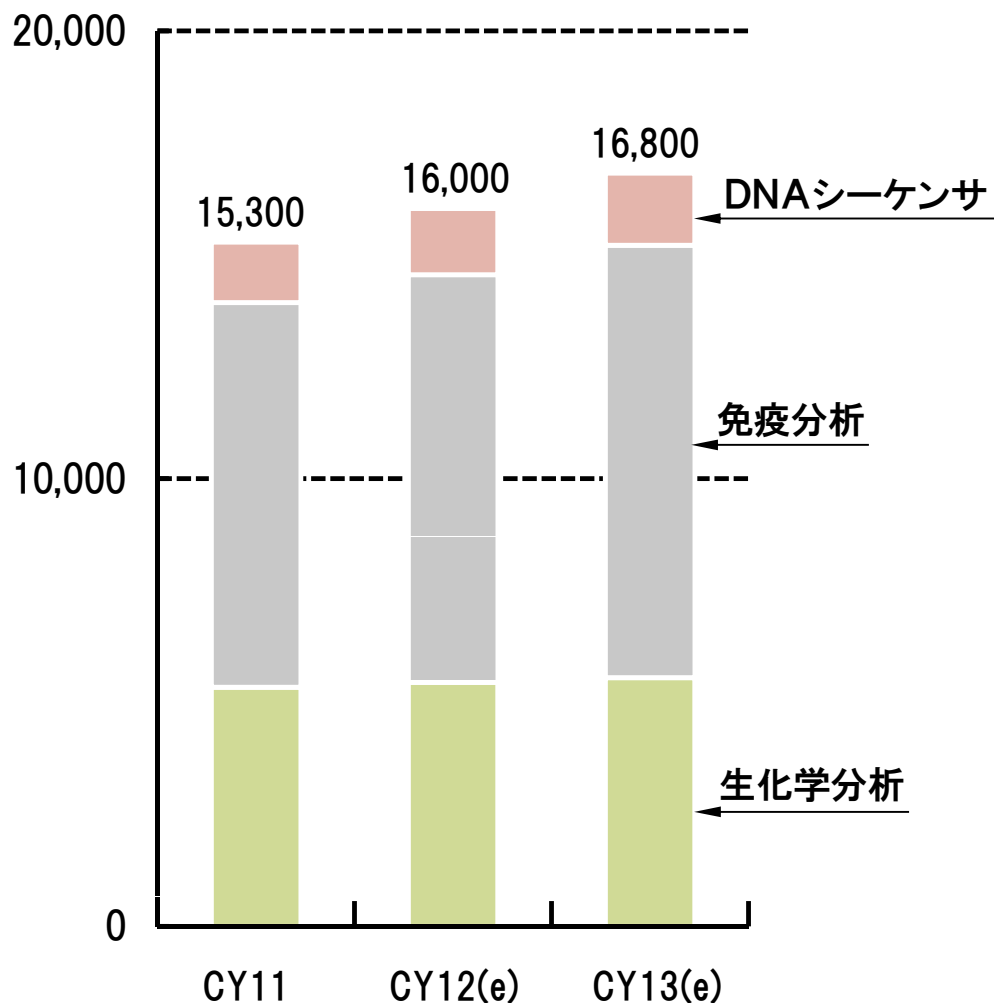
2013年3月期業績予想(科学・医用システム)③

バイオ・メディカル事業

バイオ・メディカル市場(当社関連)

12年度事業環境

(億円)(装置+試薬 売上ベース) CAGR 5%



(出所)当社推定(試薬、装置含む)

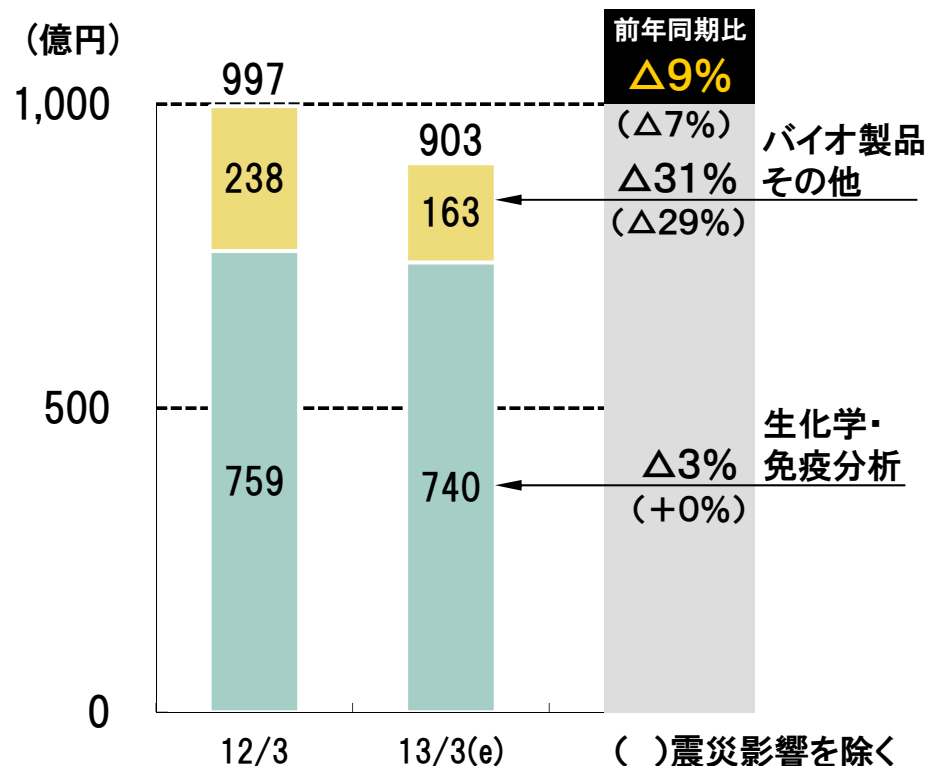
- 体外診断(生化学・免疫)
 - ・欧州市場の成長が停滞する一方、米国市場は回復傾向
 - また、中国を中心としたアジア地域の成長は継続すると予測
 - ・生化学市場は成熟しながらも微増、免疫市場は年率6%成長を維持すると予測
- DNAシーケンサ
 - ・研究分野は市場成長微減
 - ・法医学個人鑑定や医学研究等の応用分野の拡大により世界市場の成長は堅調と予測
 - ・新技術の市場参入により競争が激化

12年度基本戦略

1. 生化学・免疫統合型システムによる大・中型装置市場の攻略
2. CE*シーケンサによる臨床検査市場への本格参入

*CE:Capillary Electrophoresis(キャピラリー電気泳動方式)

売上高の推移



今後の取り組み

- 海外パートナーとの連携による大・中型生化学・免疫統合システムの大規模病院、検査センターへの拡販
- 中国最大の販売代理店網を駆使した拡大続く生化学自動分析装置需要の最大限取り込み
- 海外パートナーとの連携によるCEシーケンサ3500型の米国FDA薬事承認(510K)取得と臨床検査分野における販売立ち上げ

12年度基本戦略

基本方針

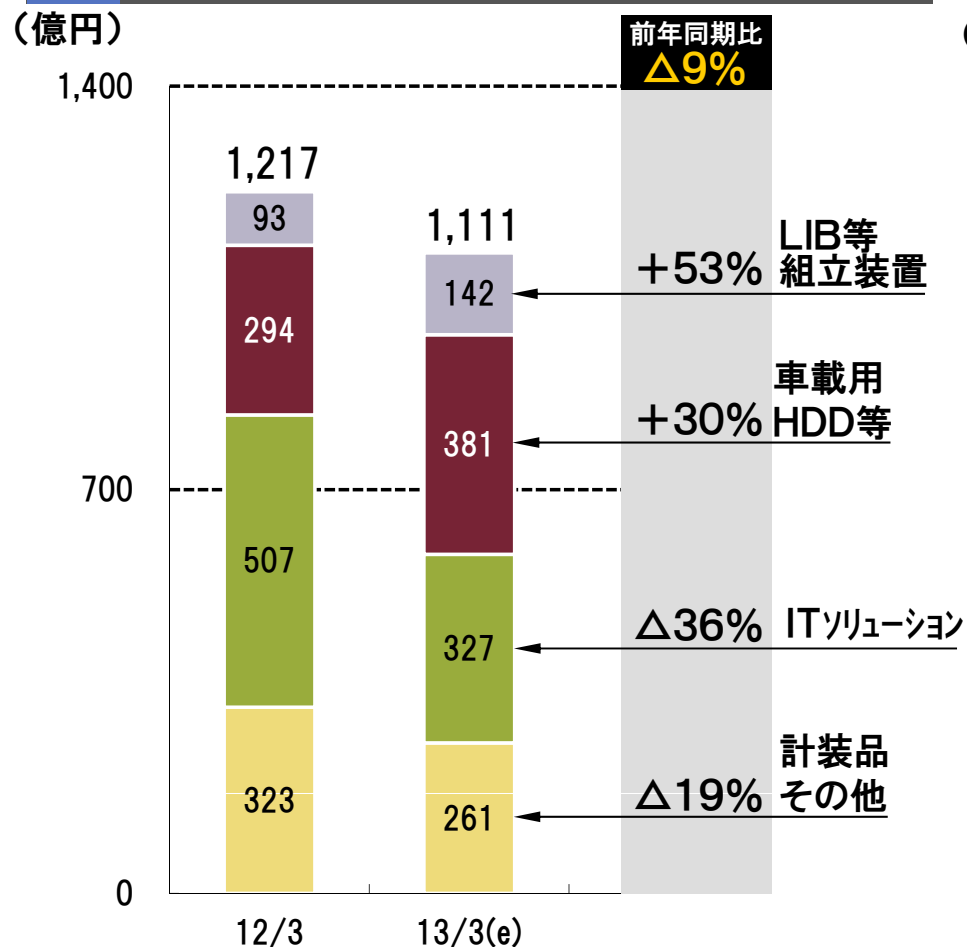
商事部門「強みの融合」による顧客提供価値の創造

■ ITソリューション力の強化
ハード(製品)事業とソフト(ソリューション)事業
統合による産業ソリューションの創造

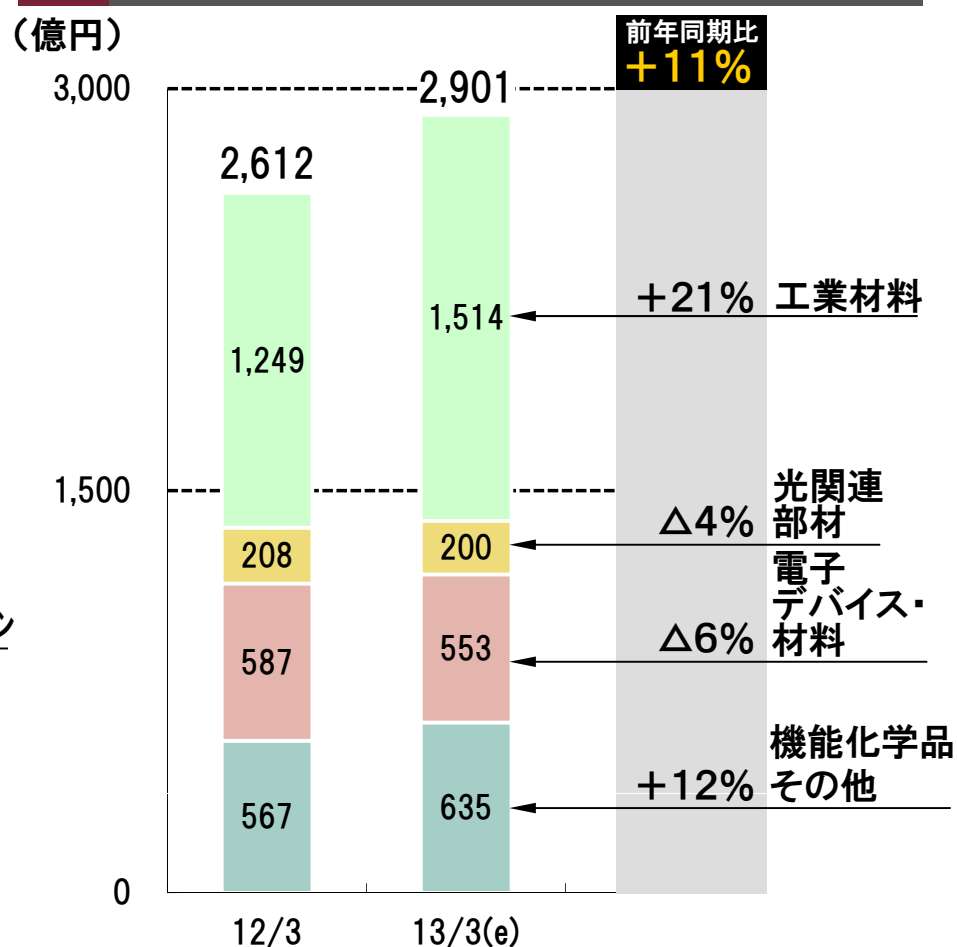


2013年3月期業績予想(産業・ITシステム/先端産業部材)②

産業・ITシステム 売上高の推移



先端産業部材 売上高の推移



IV

データ集

(注)YY/MはYY年M月期を表しています。

四半期業績の推移

(億円)

		10年 1Q	10年 2Q	10年 3Q	10年 4Q	11年 1Q	11年 2Q	11年 3Q	11年 4Q	
売上高 ／ 営業利益	電子デバイスシステム	売上高	169	311	193	286	231	301	213	279
		営業利益	7	48	20	41	24	33	17	32
	ファインテックシステム	売上高	67	108	125	88	36	79	56	58
		営業利益	△1	7	8	△3	△13	△10	△19	△21
	科学・医用システム	売上高	275	306	262	311	254	401	394	422
		営業利益	30	31	24	36	21	67	63	59
	産業・ITシステム	売上高	296	295	262	329	301	302	256	358
		営業利益	△3	7	△1	9	△2	4	△1	13
	先端産業部材	売上高	802	777	712	666	656	702	618	636
		営業利益	11	5	8	2	4	3	2	3
	その他・調整額	売上高	△24	△29	△26	△26	△25	△21	△26	△23
		営業利益	△1	△4	△3	△1	△3	△7	△5	△9
	合計	売上高	1,585	1,768	1,527	1,655	1,452	1,763	1,512	1,731
		営業利益	43	95	57	85	32	91	55	76
	経常利益		50	93	58	94	36	89	60	77
	当期利益		35	63	35	44	20	59	57	7

設備投資額・減価償却費・研究開発費/地域別売上高

■設備投資額・減価償却費・研究開発費

(億円)

	11/3	12/3	前年 同期比	13/3(e)	前年 同期比
設備投資額	90	173	+93%	257	+48%
減価償却費	90	91	+1%	91	+0%
研究開発費	208	236	+13%	252	+7%

(注)設備投資額は取得ベースにて記載

■地域別売上高

(億円)

		日本	北米	欧州	アジア	中国大陸	その他	計
11/3	売上高	2,914	585	706	2,237	960	93	6,534
	構成比率	44.6%	9.0%	10.8%	34.2%	14.7%	1.4%	100.0%
12/3	売上高	2,740	830	890	1,849	936	149	6,459
	構成比率	42.4%	12.9%	13.8%	28.6%	14.5%	2.3%	100.0%

主要製品群別売上高の状況

(億円)	10年1Q	10年2Q	10年3Q	10年4Q	11年1Q	11年2Q	11年3Q	11年4Q
電子デバイスシステム	169	311	193	286	231	301	213	279
プロセス製造装置	32	77	60	91	92	101	101	99
評価装置	79	125	82	142	87	127	72	134
後工程・実装装置	58	109	51	53	52	72	40	46
ファインテックシステム	67	108	125	88	36	79	56	58
FPD関連製造装置	56	78	103	47	30	66	45	44
HD関連製造装置その他	11	30	22	41	6	13	11	14
科学・医用システム	275	306	262	311	254	401	394	422
分析装置	27	44	31	35	29	38	35	40
解析装置	36	79	47	89	55	88	71	116
生化学・免疫分析	162	139	146	141	108	206	232	213
バイオ製品その他	49	44	38	46	61	67	57	53
産業・ITシステム	296	295	262	329	301	302	256	358
LIB等組立装置	35	21	12	32	13	25	21	34
車載用HDD等	75	82	96	103	87	66	54	87
ITソリューション	103	99	66	84	126	130	107	145
計装品その他	83	93	88	110	75	80	75	93
先端産業部材	802	777	712	666	655	702	618	636
工業材料	336	339	310	307	318	328	292	310
光関連部材	99	81	71	68	56	57	47	49
電子デバイス・材料	238	219	192	155	133	171	149	134
機能化学品その他	129	138	138	136	148	145	130	144

<資料取り扱い上の注意>

- ・本プレゼンテーションで述べられている決算概要及び業績予想は、注記がある場合を除き、すべて連結であり、億円未満を四捨五入しています。
- ・当社が開示する将来の業績見通しや戦略等に関する予想は、開示時点で知りうる情報や合理的と思われる前提をもとに策定しており、さまざまな外部要因による直接的・間接的な影響により、実際の当社の業績等が開示内容と異なる可能性があります。但し、開示内容との間に大きな乖離がある場合は、法令や証券取引所が定める適時開示規則並びに当社の自主的な判断に基づき、その都度開示していきます。

また、この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

END

2012年3月期決算説明会資料

お問合せ先
CSR本部 コーポレート・コミュニケーション部
部長 加藤 弘之
TEL:03-3504-5138 FAX:03-3504-5943
E-mail:kato-hiroyuki@nst.hitachi-hitec.com

日立ハイテック

最先端を、最前線へ。